国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release
いのちとくらしをまもる
防　災　減　災

【配付先】
中部地方整備局記者クラブ
岐阜県政記者クラブ、三重県政記者クラブ、三重県第二県政記者クラブ、大垣市政・経済記者クラブ、桑名市政記者クラブ、津島記者会
岡崎市政記者会、岡崎新聞記者会、碧南・高浜市記者会、
刈谷市政記者クラブ、豊田市政記者クラブ、豊田市政記者東クラブ、
安城市役所記者室、西尾市役所記者室、知立市政記者クラブ

令和 3 年 4 月 30 日
中部地方整備局　河川部

大規模な災害等のリスクから中部地方の水利用を守る

＝ 水供給の途絶回避へ　有識者検討会の第９回会議 ＝

　中部地方整備局は、気候変動による危機的な渇水や南海トラフ地震などの大規模災害が発生しても最低限必要な水を確保できるよう、リスク管理のあり方を検討する「中部地方水供給リスク管理検討会」の第９回会議を５月７日に開催します。

第９回 中部地方水供給リスク管理検討会

1）日　　時　　令和 3 年 5 月 7 日（金）14 時 00 分 ～ 15 時 30 分

2）場　　所　　AP 名古屋 名駅　8 階　B+C+D ルーム
（名古屋市中村区名駅 4-10-25　名駅 IMAI ビル 8 階）

　今回の第９回会議では、モデル水系（矢作川）の検討方法を他水系に当てはめ、適合性を確認し汎用度を高めていくことについて木曽川水系（案）を対象に意見交換をする予定です。

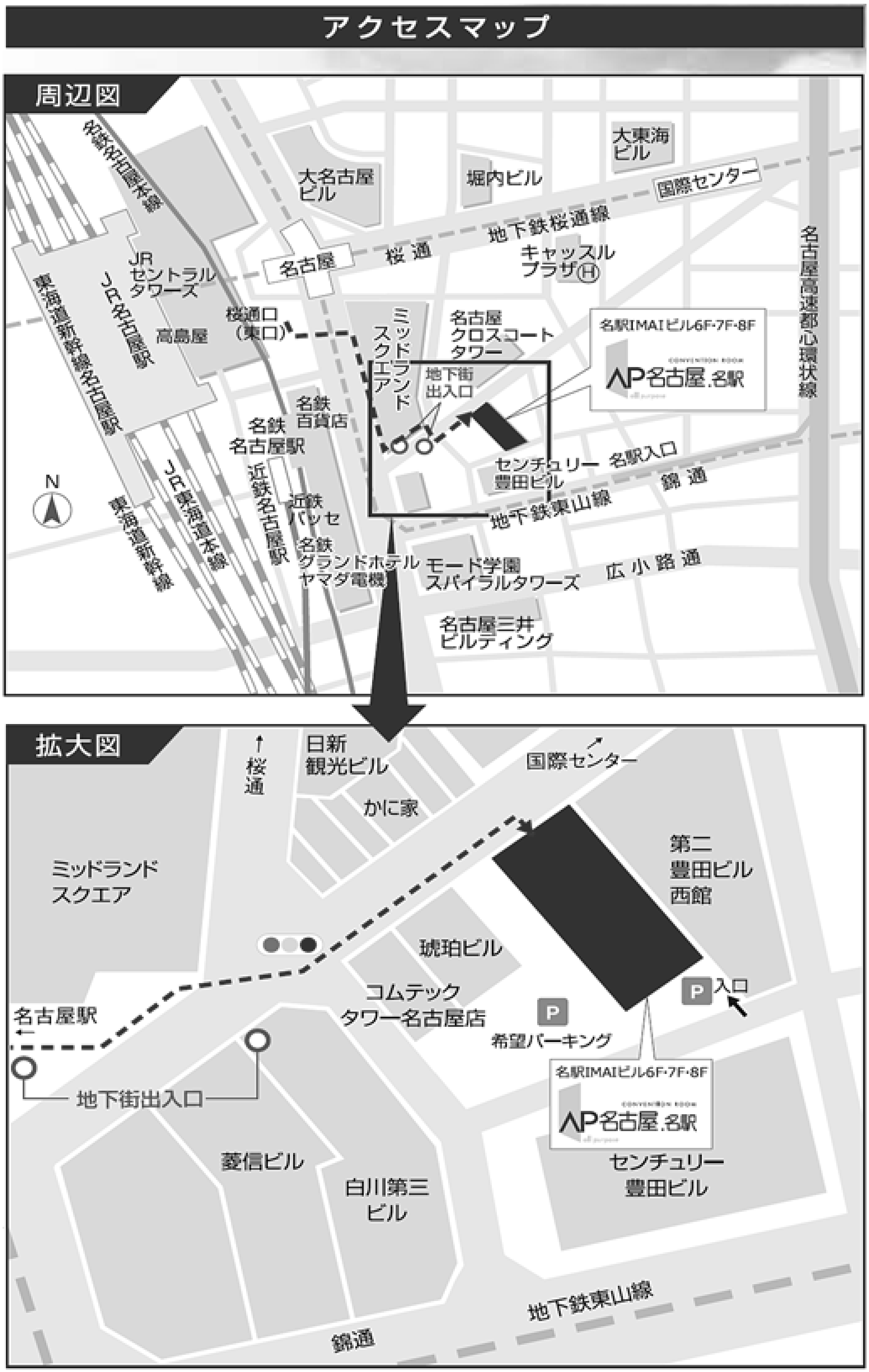
取材･傍聴について

- 会議は原則公開で行いますが、まん延防止等重点措置が適用されている中での開催となりますので、県をまたぐ移動の自粛にご協力をお願いします。
- 取材･傍聴の受付は 13 時 30 分から開始します。事前の申込は要りません。
- 撮影は会議の冒頭のみとします。
- 傍聴については満席(約 20 席)となり次第、受付を終了します。
- なお、新型コロナウイルス感染予防のため、当日は座席の間隔を広くして傍聴席を用意しています。
- ご来場前に必ず『体温測定（検温）』をしていただき、発熱などの症状がある場合は来場をお控えいただきますようお願いいたします。
- ご来場の際はマスクの着用をお願いします。
- 万が一の事態に備え、受付で取材傍聴受付名簿（住所、氏名、連絡先）を記載いただきますので、予めご了承ください。
- その他、取材･傍聴の注意事項は、当日会場にてお知らせします。

問合せ先　　河川部 河川環境課　課長：末松、課長補佐：冨安
電話(052)953-8149（課直通）

第９回　中部地方水供給リスク管理検討会　ご案内

- 日時　令和 3 年 5 月 7 日（金）14 時 00 分～15 時 30 分
- 場所　AP 名古屋 名駅　8 階　B+C+D ルーム
  名古屋市中村区名駅 4-10-25　名駅 IMAI ビル 8 階



中部地方水供給リスク管理検討会

検討会の概要

- 平成29年5月の国土審議会答申において「地震等の大規模災害、危機的な渇水等の水供給に影響が大きいリスクに対して、取組を強化していく必要がある」等と指摘されていることを踏まえ、平成30年11月1日に設置。
- 管内各地域における水供給に影響が大きいリスク要因となる外力やシナリオを検討し、水供給の停止等がさまざまな地域や利用者に与える影響と被害の程度を明らかにし、中部地方におけるリスク管理型の水の安定供給のあり方についてとりまとめを行うことを目的。

委 員（第8回時点）

敬称略・五十音順

氏 名	所 属	分 野	備 考
奥野　信宏	（公財）名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター長	地　域	委員長
辻本　哲郎	名古屋大学 名誉教授	河　川	
冨永　晃宏	名古屋工業大学 教授	水 資 源	
中北　英一	京都大学防災研究所 教授	水文気象	
能島　暢呂	岐阜大学 教授	防　災	
本山 ひふみ	愛知淑徳大学 教授	生　活	
森　直樹	（一社）中部経済連合会 社会基盤部長	経　済	

検討会の経緯

- **第1回　2018(H30).11.1**
  中部地方の水利用の状況とリスクの特徴とを踏まえ、リスクの考え方について意見交換
- **第2回　2019(H31).3.5**
  リスク管理の考え方について論点整理を行い、検討方法の流れを確立するモデル水系として矢作川水系を選定
- **第3回　2019(R元).7.24**
  モデル水系(矢作川)の水利用の特徴を踏まえ、論点整理結果の適用方法を検討
- **第4回　2019(R元).12.18**
  モデル水系の検討の進め方を確認し、リスク要因の規模（水量不足：過去の実績に基づく想定、供給遮断被害)を検討
- **第5回　2020(R2).3.17**
  モデル水系のリスク要因の発生に伴う事象(水量不足：過去実績に基づく想定、供給遮断被害：生活用水)を検討
- **第6回　2020(R2).7.22**
  モデル水系のリスク要因の規模(水量不足：気候変動データを用いた想定)と発生に伴う事象(供給遮断被害：工業用水･農業用水)を検討
- **第7回　2020(R2).11.2**
  モデル水系のリスク要因の発生に伴う事象(水量不足：気候変動データを用いた想定、供給遮断被害：下水道)を検討
- **第8回　2021 (R3).1.28**
  モデル水系の水量不足や供給遮断被害が日常生活や社会･経済活動にもたらす影響･被害を検討

中部地方水供給リスク管理検討会

設置趣旨

中部地方は、我が国の「ものづくり」の拠点として社会経済を支える重要な地域となっているため、ひとたび大規模災害等により水供給の停止等が発生すると、中部地方のみならず、我が国の社会経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある。

しかしながら中部地方では、平成６年をはじめ近年も渇水が頻発しているほか、南海トラフ地震による大規模かつ広範囲な被害が想定されていること、御嶽山の火山噴火も発生していることなど、水供給に影響を与えるリスクを多く抱えている。

こうしたリスクへの危惧は、平成 29 年 5 月の国土審議会答申においても、「地震等の大規模災害、危機的な渇水等の水供給に影響が大きいリスクに対して、取り組みを強化していく必要がある」等と指摘されている。

以上を踏まえ、中部地方整備局は、管内の各地域における水供給に影響が大きいリスク要因となる外力やシナリオを検討し、水供給の停止等がさまざまな地域や利用者に与える影響と被害の程度を明らかにし、中部地方におけるリスク管理型の水の安定供給のあり方についてとりまとめを行うため、『中部地方水供給リスク管理検討会』を設置する。

国土審議会答申「リスク管理型の水の安定供給に向けた水資源開発基本計画のあり方について」